

「自己点検・自己評価」報告書

平成 26 年度

平成 27 年 5 月 6 日作成

学校法人 正興学園

専門学校 関東工業自動車大学校

はじめに

専門学校は、教育機関として、在学生在がよりよい教育を受けることができるよう、学校運営・教育活動等について常に改善を図り、教育の質の向上に努める責任がある。また、学校運営・教育活動等の学校情報を公表し、学生・保護者をはじめとする学校関係者に対し、説明責任を果たすことが求められている。

平成19年6月に学校教育法が改正され、同年10月30日付で「学校評価に関わる学校教育法施行規則等の一部を改正する省令」が公布された。このことにより、専門学校における自己評価と結果の公表が専修学校設置基準上の義務となり、学校関係者評価の実施と結果の公表が努力義務となった。

平成27年2月17日付にて本校が職業実践専門課程の認定をいただいた。今後は文部科学省のガイドラインに基づき自己評価及び学校関係者評価を今まで通り実施いたし公表してゆくことにより、更なる教育の質保証・向上に努めて行く。

1. 学校の教育目標

「自動車大学校」を名称に掲げる本校は、「人の生命と安全を守る」就業の性質から、教育の質の向上と若者たちの人間性教育を大きな使命と考えおります。若者たちが、自己実現と日本の発展に貢献できる人材となる高等教育機関として、邁進してまいります。

関東工業自動車大学校の教育原点は、「専門知識・専門技術は当然。厳しい社会状況だからこそ、豊かな人間性をもつ若者たちを育み、21世紀を背負う若者たちに、夢と希望を与える」であります。教育指導にあたる教職員は、常にこの原点を念頭に置き、学生の個性を伸ばし、厳しい社会を乗り越えていける柔軟性と、自己実現や守るべきものを守る強い心を持ち合わせた人間を育成するため、学生に対して時には二人三脚で寄り添い、時には一人で走らせ伴走するといった指導体制において、成果（結果）を出して学校としての責務を果たしてゆく。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

今社会が求めている教育内容について、企業との連携を密にすることにより教育内容を充実させるべくカリキュラム編成を行い、本校で学ぶ学生が社会から必要とされる人材となるように努める。

また、経済的理由や家庭環境による退学者を低減させてゆくため、学費の経済的支援の拡充及び学生個人に対するカウンセリングの強化することで学生指導の質的向上（経済的・精神的）に努める。

3. 評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1
・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	④ 3 2 1
・学校における職業教育の特色は	④ 3 2 1
・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	④ 3 2 1
・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	④ 3 2 1
・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4 ③ 2 1

① 課題

現在のカリキュラムにおいて、企業ニーズをどのようにおり組んで行くかが課題として残るが、教育課程編成委員会等を通して、教育内容に反映する体制をさらに進めて行く。今後も継続的に業界との繋がりを持ち、計画性をもって効果的に教育内容の検討を行い、次年度の具体的カリキュラムを編成する体制を定着させる。

② 後の改善方策

業界で強く求めることは、自動車整備士としての基本的な作業を確実に行う能力であり、2年間で、整備の基本作業を複数回反復させることが重要と考える。これと並行して、社会人としての人間性を育むことにも重きをおく必要がある。業界の方に実習や講習をお願いする機会を増やし、リクルートの講習会から必要とされる知識・技術教育に比重を置く取り組みを具体的に検討する必要がある。

③ 特記事項

今年度の経験を活かし、早目に企業との打合せを行いカリキュラムに組み入れられるようにしてゆく。

(2) 学校運営

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1
・目的等に沿った運営方針が策定されているか	④ 3 2 1
・運営方針に沿った事業計画が策定されているか	④ 3 2 1
・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	④ 3 2 1
・人事、給与に関する規定等は整備されているか	4 ③ 2 1
・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4 ③ 2 1
・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	④ 3 2 1
・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	④ 3 2 1
・情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4 ③ 2 1

①課題

安全・安心を最優先にして、より魅力ある学校とするため、校舎などの施設等を計画的に改修 整備し、学生が学びやすい環境の整備を進める。

②今後の改善方策

昨年度完成した新実習教室を軸に、高校生に自動車整備の環境が”きれい”、”清潔”であることを訴求し、入学生の確保を行ってゆく。

③特記事項

学生支援を第一に学校運営を展開できるように、各部署と調整を図って行く。

(3) 教育活動

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	④ 3 2 1
・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	④ 3 2 1
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	④ 3 2 1
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	④ 3 2 1
・関連分野の企業・関連施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムに作成・見直し等が行われているか	4 ③ 2 1
・関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	④ 3 2 1
・事業評価の実施・評価体制はあるか	④ 3 2 1
・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4 ③ 2 1
・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	④ 3 2 1
・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	④ 3 2 1
・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	④ 3 2 1
・関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	④ 3 2 1
・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	④ 3 2 1
・職員の能力開発のための研修等が行われているか	④ 3 2 1

①課題

実践的な職業教育のベースを身につけさせてゆくために計画を策定するうえで、新技術の紹介や研修があっても、技術レベルが飛躍していたり、教材の確保が難しいケースが多い。

②今後の改善方策

学生への教育レベル及び内容の充実を図る上で、教員が研修会等へ参加して行くとともに、企業等から得られて必要とされる人材像を認識し、今後の教育内容に反映させてゆく。

③特記事項

特になし

(4) 学修成果

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1
・就職率の向上が図られているか	④ 3 2 1
・資格取得率の向上が図られているか	4 ③ 2 1
・退学率の低減が図られているか	④ 3 2 1
・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4 ③ 2 1
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4 ③ 2 1

①課題

後援会企業についての卒業生の活躍は大筋把握することができてきたが、それ以外の企業へのアプローチが難しい状態である

②今後の改善方策

同窓会活動を充実させ卒業生の状況確認方法について確立して行く

③特記事項

特になし

(5) 学生支援

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1
・進路・就職に関する支援体制は整備されているか	④ 3 2 1
・学生相談に関する体制は整備されているか	④ 3 2 1
・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4 ③ 2 1
・学生の健康管理を担う組織体制はあるか	④ 3 2 1
・課外活動に対する支援体制は整備されているか	④ 3 2 1
・学生の生活環境への支援は行われているか	4 ③ 2 1
・保護者と適切に連携しているか	④ 3 2 1
・卒業生への支援体制はあるか	4 ③ 2 1
・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	④ 3 2 1
・高校・高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	④ 3 2 1

①課題

学生の生活環境、経済的環境をより早く把握して、学生の将来を確保できるように支援への遅れが発生しないような体制作りを進める

②今後の改善方策

卒業生の意見を聞き、どのような支援が必要であることを明確にしてゆくことが必要である

③特記事項

特になし

(6) 教育環境

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1
・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4 ③ 2 1
・学内外の実習設備、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	④ 3 2 1
・防災に対する体制は整備されているか	④ 3 2 1

①課題

教育施設・設備の適正化を図る必要性がある

②今後の改善方策

スペースの有効利用のための検討、施設・設備の適正化を教育内容に合わせて検討する必要がある。また、災害時を想定した動線の確保も検討が必要。

③特記事項

新技術に対応すべく新しい設備を拡充して行くことは必要であるが、企業等から求められている教育内容・レベルに合致したものであるかを検討し予算化して行く必要がある。
また、新実習棟完成に合わせて、災害時を想定した学生の避難動線及び設備・機器の取り付け状態の確認を実施する必要がある。

(7) 学生の受入れ募集

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1
・学生募集活動は、適切に行われているか	4 (3) 2 1
・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	(4) 3 2 1
・学納金は妥当なものとなっているか	4 (3) 2 1

①課題

募集活動においては、教員の授業との兼ね合いを考慮しつつ実施しているが、他校との競争力に優位性を持つための対応策立案への創意工夫が求められる。また、高校側へOBの活躍情報においてシステム構築に取り組み改善を図る必要がある

②今後の改善方策

体験やオープンキャンパス等において、教員及び在校生の声に触れさせて行き、入学後のミスマッチを防止して行く。また、整備体験等において自動車整備に魅力付けできるような内容として行きたい。入学希望者個人や生徒指導にあたる高等学校側は、就職率に加えて整備士の労働環境に大きな関心を寄せている。近年の就職率は好調であり良い状況を提供するとともに、労働環境についても企業人事及び卒業生より意見を聴取し伝えて行く必要がある。

③特記事項

本校ホームページに授業風景、学園生活の映像（YouTube）をのせ、高校生が進学先で行われていることを容易に想像できるようにしてゆき、進学不安を解消して行く。

(8) 財務

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1
・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	(4) 3 2 1
・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	(4) 3 2 1
・財務について会計監査が適切に行われているか	(4) 3 2 1
・財務情報公開の体制整備はできているか	4 (3) 2 1

①課題

少子化に伴う学生数の減少で、収入の 9 割を占める学生納付金が減り、収支は依然厳しい傾向にある。校舎の改修・整備に向けた資金調達のためにも、安定した財政基盤の整備が急務となっている。

②今後の改善方策

学生納付金の減少を補うため、経費の削減と事務作業の効率化および教職員配置の効率化、さらに貸し教室など収益事業の強化を推進することで、財務内容の改善を図っている。

③特記事項

特になし

(9) 法令等の遵守

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1
・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④ 3 2 1
・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4 ③ 2 1
・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	④ 3 2 1
・自己評価結果を公表しているか	4 ③ 2 1

①課題

「教育の質」の保証と向上を担保するために、現在行っている「自己評価」「学校関係者評価」に加えて、「第三者評価」の実施が必要となる。

②今後の改善方策

個人情報保護のルールを厳格化するとともに、教職員の全体会議などあらゆる機会をとらえて保護意識の向上に努めている。

③特記事項

特になし

(10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1
・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	④ 3 2 1
・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4 ③ 2 1
・地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	④ 3 2 1

①課題

今まで以上に学生へ対し、ボランティア情報を開示・説明して行く必要がある

②今後の改善方策

学生たちが学業に支障なくボランティア活動へ参加できるような体制を検討する

③特記事項

特になし

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

職業実践専門課程に認定され、企業との連携を今まで以上に密にして、今社会が求めている教育内容、カリキュラム編成を行うための企業等の方々から貴重な意見・アドバイスを頂きました。本校で学ぶ学生が社会で求められている知識・技術としてCS（お客様対応力）についてのロールプレイング授業や、診断器（スキャンツール）を使用した診断方法、診断器の活用方法などを授業に取り入れ実施することは評価に値する。

また、経済的理由や家庭環境による退学者を低減させてゆくため、学費の経済的支援の拡充及びカウンセリングの強化する体制づくりが確立しつつあることも評価される。

平成27年度は、今まで以上に企業等の方々の意見を参考に教育内容の改善に努めカリキュラムにより多く織り込めるよう基礎を作る方針である。

また、学生指導体制の確立を実施させ、退学者をゼロにしてゆく取組も継続的に実施して行く。